



市民病院

八十ちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

市民病院は開院30周年となりました



市民病院は昭和63年5月23日に開院して以来、今年で開設30周年を迎えました。市民の皆さんに愛される病院を目指し、スタッフ一同これからも頑張つてまいります。

30周年記念行事を開催します

オープンホスピタル形式で市民の皆さんが楽しめる催し物をたくさん企画しています。是非ご参加ください。

とき 10月21日(日) 9時～15時

ところ 市民病院

内容

- ・スタンプラリー（空くじなし）
- ・普段見ることのできない病院内部の見学・体験
※当日配布する整理券が必要です。
- ・医療スタッフによる各種相談（栄養相談など）
- ・キッズダンス
- ・音楽コンサート
- ・大道芸、中国ごまのパフォーマンス
- ・キッチンカー
- ・ピンボールすくいなどの屋台

碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料
調査室 ☎(41)4566

No.52 大浜陣屋村々の発展(2)

大浜村、鷺塚村は室町時代中ごろより港町として栄え始めました。織田信長の家臣が書いた信長の一代記『信長公記』には、大浜・鷺塚が次のように書かれています。「三河国の端の海辺に、軍事上重要で財力をもつ大浜、鷺塚という人の多い港がある。大坂（石山本願寺）は血筋の坊主を鷺塚御坊へ送り込み、一向宗門徒で大いに繁盛している」

特に、大浜村の港は船でにぎわい「人・物・金」が集まったことから、大浜は「繁盛の所」といわれました。ところが大浜藩となる前の大浜港は、村から代官所に願書を出しても、幕府公認の港にはなれませんでした。

そこで、大浜村の庄屋たちは、さっそく陣屋に幕府公認の港となるようお願いしました。水野家から幕府勘定奉行へ願書がまわると、まもなく幕府公認の港となり高札が掲げられ、港での決まりも徹底されました。こうして、殿様水野忠友の力を背景に大浜港はさらに出入の船でにぎわうようになりました。

陣屋の村々の発展は人の数が増えることで実感できました。幕府は年貢米確保のため「検地」をしましたが、それ以上の回数で人口調査をして『諸国人数帳』にまとめていました。江戸時代後半100年間の日本の人口は、増減がなく約3千万人前後で推移しました。そのうち三河国は42万人前後で推移し、人口の増加は見られない時代でした。

ところが、この地域の人口をみると、大浜村（現在の新川も含まれる）は、1767年が5,461人で、1869年には8,611人と1.58倍となり、棚尾村は、1782年が997人で、1869年には5,790人と5.8倍に増えています。また、鷺塚村は、1742年が1,934人で、1872年は2,540人と1.31倍でした。特に人口が増加した棚尾村については『棚尾村明細帳』に他地域の村から移り住んだ人々がたくさん記録されています。



△大浜港（1921年ごろ）